２４－６－１
平成２７年６月度　修習技術者研修会

1.　「平成２７年６月度 修習技術者研修会」報告

2015.6.13
修習技術者支援実行委員会
委員補佐　石附、後藤

2.　研修会概要

日　時　平成 27 年 6 月 13 日（土）
13:00～19:30
主　催　社団法人日本技術士会
修習技術者支援実行委員会
会　場　日本技術士会葺手第二ビル５階

3.　研修会の内容

修習技術者研修会 司会	13:00～18:00 野村　晃平
開会挨拶 修習技術者支援実行委員会 委員長	13:00～13:10 神下　　栄
セミナーの趣旨説明	13:10～13:15 野村　晃平
講演 「子どもの安全を守る 技術士の「良い仕事」」	13:15～14:35 佐藤　国仁氏
休憩	14:35～14:45
ケースワーク （グループに分かれて討議）	14:45～16:25
グループ発表 （４グループの発表）	16:25～17:45
講評 修習技術者支援実行委員会 副委員長	17:45～17:50 川村　智
情報交流会	18:00～19:30

4.　研修会の参加者

今回の研修会は、技術士第一次試験合格者及び JABEE 修了予定者（修了者を含む）を対象とした修習技術者研修会であった。修習技術者を中心に１６名が参加した。

参加者の技術部門は、機械工学部門、経営工学部門、情報工学部門、他であった。参加者の居住地は、関東を中心とした参加者が多かったが、北海道、広島からの参加者もいた。

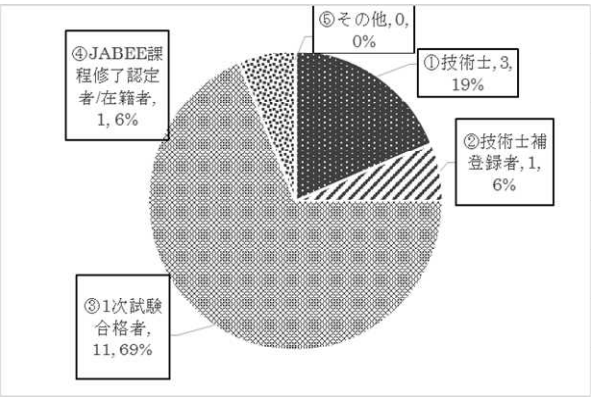

図 1　参加者ステータス

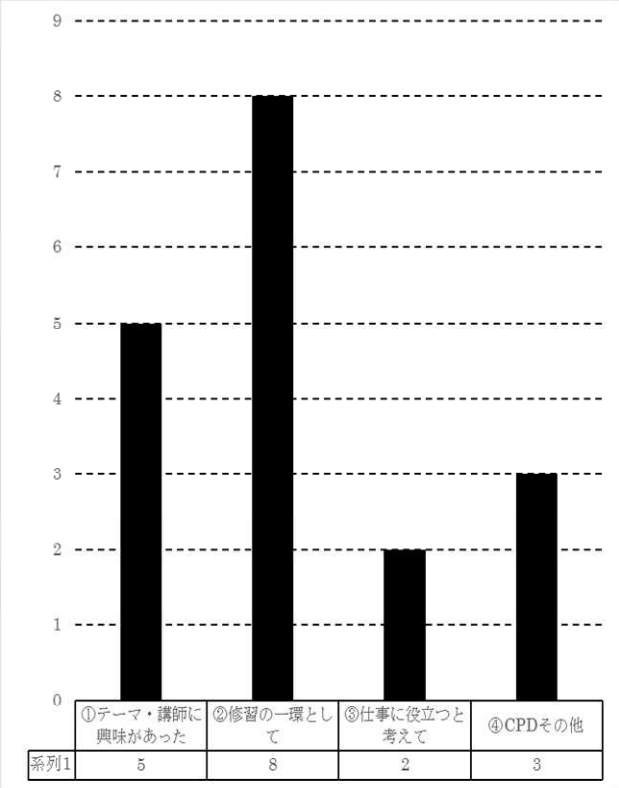

図 2　参加動機（複数回答）

5.　研修会の状況について

今回のセミナーでは、まず修習技術者支援実行委員会の神下栄委員長の開会挨拶で、基本課題は、行動原則で。社会の保全・持続、社会が危険にさらされないように行動すること。負のリスクに対して、公衆の安全を優先することのお話があり、司会者より、研修の目的は、技術者倫理のケーススタディであると、セミナーの趣旨説明があった。

続いて、「子どもの安全を守る技術士の「良い仕事」」と題し、佐藤国仁氏の講演があった。この講演を聴いて、グループ討議のテーマが与えられ、４つのグループに分かれてディスカッションが行われた。

◆　**講演について**

佐藤国仁氏の講演は、「子どもの安全を守る技術士の「良い仕事」」と題して行われた。講演では、子どもの安全研究グループの前会長である佐藤氏より、技術者の立場から見た場合の子どもの事故は、同じ原因による事故が繰り返しおこっていること、既存のエンジニアリングの知見を援用することで救うことができると思われる少なくないが、事故態様が十分明らかで無く、真に有益な対策を打ち出すには、情報が少ないことが問題点であると説明された。技術者倫理に基づく「良い仕事」の要件として、技術者への社会の期待に応えていること、技術者倫理の７つの原則に則っていることが重要であると語られた。

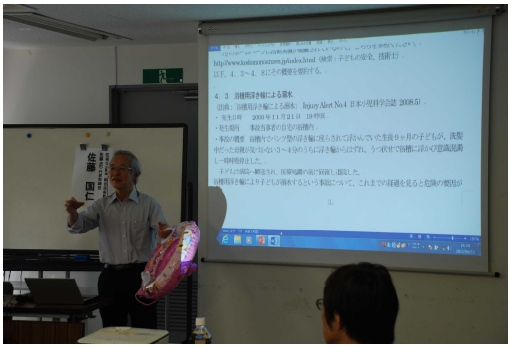

写真 1　佐藤国仁氏の講演状況

◆　**良い仕事の事例ついて**

続いて、佐藤氏により、子どもの安全研究グループの事例紹介が行われた。浴槽用浮き輪による溺水は、実際の浮き輪を持参されて、不安定事象を、ダミー人形を浮き輪に乗せての実験観察から、安全から転覆に至る過程について行った解析を説明された。マニキュア除光液による中毒の解析では、再現テストの結果から、アセトンの蒸気濃度は、子どもがいる床下では、母親の鼻の位置の１３倍の濃度であることが判明した。流水プールでの吸い込まれ事故は、５ｍｍのネジで４箇所しか固定されていないという、設計と施工に重大なミスがあったことが解析結果で判明した。

さらに、子どもの安全研究グループの会長である森山氏から、高層階からの転落事故の調査研究の説明があった。

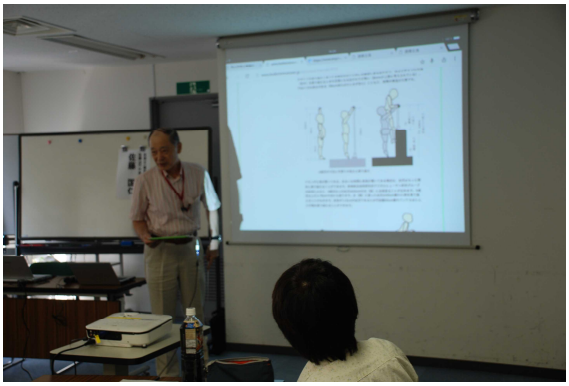

写真 2　森山氏の講演状況

◆　**ケースワークについて**

ケースワークは、４グループに分かれて、グループ討議を行った。グループ討議のテーマは、グループメンバーが子どもの安全に貢献することを主たる事業目標とする組織を作り活動を行う。その事業計画を作成する。その上で、当該事業がどのように「良い仕事」と評価されるのかを考察する。事業計画書は、主要な事業概要、会社概要、製品とサービス、市場分析、戦略と実行方法、経営概要、資金計画について作成し、当該事業が「良い仕事」と評価されるところを明確にすること、のテーマが与えられた。

アドバイザーとして、子ども安全研究グループから、森山氏、瀬戸氏、和田氏、矢部氏が加わった。

写真３　ディスカッションの状況

グループ発表は、発表した順に紹介する。

◆　**グループ＃１の発表**

子供用見守り SNS

対象者は、スマホを持った小中高生で、インターネット内での危険を見守りとして、データマイニング技術を駆使して危険なキーワードを検出して、危険を保護者に知らせるサービスを行う。

質疑：スマホを持っていない人は対象外としているが問題ないのか？データマイニング技術だけでなく、新キーワードの学習機能も必要ではないか？

佐藤氏の講評：技術士は、専門性が重要である。自分の専門性を生かすこと。SNS で子どもを見守るのは難しいのではないか。

写真４　グループ＃１の発表状況

◆　**グループ＃４の発表**

子供の安全株式会社

技術士としての知見を用いて危険を予知して安全な社会を実現する。

① 個人家庭向けサービス:専門スタッフを派遣して家庭内で起こりうる事故を未然に防ぐアドバイスを行う。
② 企業・メーカー向けサービス：設計段階での危険性を予知、安全認定証の発行
③ 行政向けサービス：法整備への提言、個人、企業向けサービス、データの提供

質疑：マンションの場合、間取りが同じなどあり、①、②のサービスは管理組合で行うと有効ではないか。社員のノウハウ、経験をどうやって積むのか？

佐藤氏の講評：個人、企業、行政のカテゴリ分けは良いが、収益構造が無い。法の整備への提言は、技術者の重要な仕事である。

写真５　グループ＃４の発表状況

◆　**グループ＃３の発表**

子供の安全貢献

対象は、施設、生活品、おもちゃなど、子供の回りにあるもの。おもちゃなど製品使用の安全に関する情報提供（発信）子供の特性を理解してアドバイスする（評価）

質疑：収益構造は？→行政への情報提供による補助事業から始める考えである。

佐藤氏の講評：商品についての概念が固まっていなかった。具体的な商品の提案が欲しかった。

写真６　グループ＃３の発表状況

◆　**グループ＃２の発表**

「チーム松崎」セイフティセンサーによるASP事業

対象は、１～４才。安全をサポートする製品、モニタリングできるウェアラブル製品の開発を行い、窒息、異常事態、誤飲の検知により、子供の安全を守る。「よい仕事」保護者は、常時、子供のモニタリングが可能となる。取得データをクラウド化することでデータの消失のリスクを軽減できる。危険因子の分析結果を提供、未然に病気を防ぐことに役立つ。

質疑：Apple Watch と似たようなサービスだが、差別化はできるのか？

佐藤氏の講評：名前の付け方は重要。Apple Watch とは、ここが違うぞ！といった意見が欲しかった。

写真７　グループ＃２の発表状況

◆　**グループ発表の評価**

討議の参加者同士で、どのグループの発表が良かったかの評価を行った結果、グループ＃４の評価点が、最も高かった。

写真 8　佐藤氏の総評

◆　**川村副委員長の講評**

川村副委員長より、異業種の方が集まったグループで、この短時間で、ここまでまとまった事業計画が立案でき、大変素晴らしいとのお褒めの言葉を頂いた。

写真 9　川村副委員長の講評

6.　情報交流会の状況について

情報交流会には、今回も大勢の方が参加した。特に今回は、はじめて参加された方が多かった。講師、子どもの安全研究グループの方も参加され、ご講演や、グループ討議の内容などを踏まえた、活発な意見交換が行われた。また、今後の修習活動に向けても、積極的な情報交換が行われた。

以　上